



# AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (J S O)

No.158

## ■第22回ワールド・サービス・ミーティングに参加して

2012年10月21日～25日にニューヨーク州ライブルックのヒルトン・ホテルにおいて開催された標記ミーティングに、WSM 評議員新村氏とともに参加してきましたので、報告します。ヒルトン・ホテルは居心地がよく、食事もおいしいですが、5日間ホテルに缶詰めになって、朝から晩まで英語の会議に出席するのは、けっこうしんどい面もありました。とはいうものの、もちろん勉強にもなりました。A類常任理事 藤岡淳子

22回目を迎える今回の会議は、33の国と地域から62名の代表者が参加し、その中で、チリ、エクアドル、スロベニアが初参加でした。「どこにあるのかわからない。聞いたこともないような・・・」という国もたくさんあり、いわゆる先進国中心の他の国際学会とは異なる雰囲気がありました。公用語は英語ですが、スペイン語が幅を利かせていて、複数の同時通訳がいました。実は、私たちがアメリカのメンバーに通訳をお願いしていて、通訳がいるのは、スペイン語と日本語だけでした。

内容は、後期評議員が与えられたテーマで話をするプレゼンテーション、前期評議員が発表する各国のAAについてのカンタリー・ハイライト、小集団に分かれてテーマについて話し合うワークショップ、そして各委員会の4本が柱となっていて、他に種々の挨拶や全体シェアリングがあります。

プレゼンテーションのテーマは、「若い世代とAA」、「インターネットとニューテクノロジー」、「12の概念」、「輪番制」、「アルコール以外の問題」、「書籍」、「AA機構の発展におけるスポンサーシップ」の7つのテーマが設定されていました。テーマを見ると、世界のAAで何が話題あるいは課題となっているかが、少し見えてくるような気がします。伝統的な理念の確認、AAの活動を発展させるための課題と方法、社会の変化によって生じてきている変化への対応といったところでしょうか？国や文化が異なっても、概ね基本にある価値観や理念は共通しており、このように世界どこの国でもAAの理念を本筋から外さないために意見交換をするというのもワールド・サービス・ミーティングの目的の一つなのだろうと思いました。非当事者の私としては、多少「洗脳」あるいは「宗教」のような違和感も感じましたが、回復に至ることや、そのための集まりを維持・運営するためには、国や文化を超えて本質的に大切なことなのかもしれないと思います。AAの「一体性」ということがどのような意味なのかよく理解しているとは言い難いですが、こうした「分かち合い」によって、「一体性」を作り、維持していくことが重要であるということは理解できました。おそらく日本でも、国や文化を超えたAAの本質は、ワールド・サービス・ミーティングでの分かち合いと日本国内でのミーティングによる分かち合いにおいてのみ伝達され、共有され、私たちを導くものとなるのだと思います。

カンタリー・ハイライトは、5分以内という短い時間ですが、概ね各国の規模とトピックが話されていました。献金の話と電話やネットを使った新たな相談受付事業についても多くの国で報告されました。各国が、ちょっとしたグッズを配っていたのも印象的でした。日本は、和紙に日本語で書いた「小さな祈り」(と箸)をおみやげにしたので

すが、どこかの国の人に「一言語ということはないだろう。他の言葉のくれ」と言われたことも新鮮でした。多くの国が2つ以上の言語を抱え、ビッグブックの出版でも少数言語の翻訳出版が課題となっていました。字が読めない人も多いので、多様なメディアが必要という話も出ていて、日本の「特殊性」を実感しました。日本語だけで済むというのは、チョー楽勝と思う一方、日本語だけで暮らせてしまうからか、日本以外の国では、少数派になってしまう感じなので、「禍福はあざなえる縄のごとし」ですね。

よその国のスポンサーシップを積極的にしている国が多かったことも目からうろこでした。率直に言って、「何でわざわざ世界に出ていかなければならないのかな？」と、派遣されておきながら思わないでもなかったのですが、「苦しんでいるアルコールリックに手を差し伸べる」のがAAであるとすれば、確かに国に関係ないのかも、日本のAAもアメリカや他の国々から支援を受けたし、もう少し積極的に他国のスポンサーをしてもよいのかなと思うようにもなりました。人類に共通の、国や文化を超えた価値を感じる一方、ちょっとキリスト教の宣教活動も連想しました。

柱の2つについて説明しただけで紙数が尽きてきました。ので、一番言いたいことを言ってこの報告を終わることにします。それは、A類常任理事ではなく、当事者の方に是非参加して欲しいということです。1968年にビルがWSMを提案した際には、将来的に世界のAAの一体性を確保するために北米での展開を示し、世界の体験を共有することを目的とし、参加者としては、各国AAの所長/議長/委員長を想定していました(A類も可)。自国負担であれば、通訳をつけることは問題ありません。英語ができるかどうかよりも、AAの経験が豊かで、それを他と共有していくことに熱心なメンバーがWSMに参加し、それを日本のメンバーに伝えていくことが何よりも考えています。今回は、希望者がいなかったということで、私が行かせていただきましたが、是非当事者の方に手をあげていただきたいと思います。

WSMの報告を2月開催の全国評議会および全国各地域を巡回して行います。その際は、パワーポイントを使い、写真もあるので、より分かりやすいと思います。また、ここでは触れられなかった、ニューヨークGSOとビルの家へのツアーについても報告します。この文字だけで味気ない報告で少しでも関心を持ってくださったら、ご参加いただければ幸いです。特に、地域での報告会では、世界各国からいただいたスモール・グッズも抽選等で当たりますので、是非ご参加ください。

## ■各地域より

### 関東甲信越地域ラウンドアップを終えて

実行委員会 ブロック

日程 2012年10月12～14日

場所 山梨県南巨摩郡身延町下部 1900 下部ホテル

テーマ『生きるんだ！ きっといいことがある in 愛の僕(下部)』

「ブロック、実行委員長やってみないか？」「Hi！ やらせて下さい！」さあ、実行委員会の立ち上げです。私は、30年間酒を飲み続けて来ました。地元でも、お祭りの実行委員長、駅伝の選手などを引き受けてきたのですが、いつも当日は酒に溺れ、必ずと言っていいほど当日は逃げていました。酒を断った今、中途半端を繰り返し続けた自分自身の埋め合わせをしたい。一つのことをやり通すチャンスを与えられたと思ったからです。

今年3月、山梨地区に秋季ラウンドアップ開催の依頼がありました。山梨地区での話し合いが行われ、各グループで検討してもらった結果、「半年の準備期間では無理ずら」との意見もありましたが、「いいじゃん。やってみるじゃん。」との賛成グループが多かった為、開催を引き受けることになりました。

実行委員長になったその足で、今回の会場となった地元の下部ホテルに向かいました。250～300人の宿泊になるので、宿泊料金の割引やサービスも期待していたのですが、予想以上に簡単ではありませんでした。

食い下がって交渉をしましたが、下部ホテルの規模では通用しません。「別の所を探して頂いても結構です。」とまで言われ、昔の自分なら捨てゼリフを吐きながら帰りましたが、今は違う！ 何度かその担当の方と会って、アルコール依存症という病気の理解をしてもらい、ラウンドアップの意味、その効果や実績、全国のAAの仲間の絆を話の中に取り入れて粘り強く通い詰めました。担当の方も徐々に打ち解けてくれて、上司へ掛け合い、希望通りとまでは行かないまでも出来る限りの協力をしてくれました。大変だったと思います。本当にありがとうございました。

実行委員会も13回ほど開かれ、企画・予算・分担等を話し合いました。大勢の仲間が参加してくれて、それぞれの得意分野を生かした意見や提案が集まって和やかな雰囲気で行進し、役割分担が決まっていきました。みんなの協力体制や行動力には感謝の二文字しかありません。

その一環として、下部ホテルでシミュレーション宿泊をしました。部屋や施設の下見、食事のチェック、受付やテーブルの配置など当日がスムーズに行進できるように段取りをしてくれた仲間にも感謝です。だんだんと準備が進んできましたが、今回2泊3日のラウンドアップのうち、2日目の参加者が思うように集まりません。かなりのプレッシャーが自分自身を襲ってきます。

何度かミーティングでその事を打ち明けると、いろんな仲間が「みんなやっているんだ。心配するな。」と声を掛けてくれて、心強く感じました。そうだ、一人じゃない！ その言葉通り、2日目の参加者も集まり当日を迎えました。それぞれの担当が、役割分担を手際よく

流していきます。参加者の仲間との握手には、支えてくれる仲間の分も重みがあり、今まで感じたことのない達成感です。私にとって、大きなハイヤーパワーを感じた本当に素晴らしい体験になりました。

また、実行委員会が開かれるたびに、他県からの仲間が参加して下さい、貴重なアドバイスを頂きありがとうございました。

今まで中途半端だった私が、一つの事をやり通すことが出来たのは、仲間の支えや協力・励ましが大きな力になったからです。このチャンスを頂いたことに感謝し、これからも仲間とともに絆を深めていきたいと思います。

### 中四国ラウンドアップ in 高知・桂浜 を終えて

実行委員会 KEN

日程 2012年10月12～14日

場所 高知市浦戸城山 国民宿舎 桂浜荘

テーマ『あせらんとやろう、けんどやろう』

2011年11月の中四国地域集会で2012年中四国ラウンドアップが四国地区で開催と決まり、四国地区委員会で開催地を高知桂浜に決定。実行委員会を立ちあげました。私もラウンドアップは初めてでしたが地元と言う事もあり、実行委員長に立候補し承認して頂きました。四国地区が立ち上がって、まだ2年目。一抹の不安も感じましたがラウンドアップ経験者もあり、心強さも感じながらのスタートでした。

月1回の実行委員会を重ねて行く中で、さまざまな意見が飛び交いました。時には一生懸命になるあまりトラブルになりかねないような事もありましたが、参加される仲間の気持ちは一つ。「私たちの本来の目的はただ一つ、今苦しんでいるアルコール依存症者にメッセージを運ぶ」この一点に集中したが為に白熱した意見が飛び交ったものだと思います。どうすればより良いイベントになるか、各自それぞれの経験を出し毎回、時間が足りないような実行委員会でした。

私も初めての実行委員長と言う事で、何から始めたらいいのかわからない状態で、最初から最後まで名前だけの実行委員長でしたが仲間が助けられ、時には叱咤激励(しつげきい)されながら務めさせて頂きました。

速報に始まり案内を出し、いざ受付開始。最初は申し込みが少なく「開催は大丈夫か？」と不安になり各地の仲間に相談すると「大丈夫。仲間を信じなさい、自分だけでやっているのではない」と、大変心強い言葉を頂きました。開催日は10月12～14日でしたので、締め切りを当初8月末にしていたのですが、9月末へに変更し状況を見ていました。当初の不安は直ぐに消え、月末には申し込みが殺到。ホテルの客室も増やしてそれでも足りない状態になり、ありがたい悲鳴を上げさせて頂きました。

実行委員には大変申し訳ないことに大広間で宿泊をお願いすることになりましたが「これも一つの思い出になるよ」と気持ちよく承諾を頂き仲間の寛容さにも感謝。実行委員長として何も出来ない私を見守り、経験させて頂いた仲間へ感謝です。実行委員会は高知で毎月1回行いましたが交通アクセスが悪いのにも関わらず仲間は何も言わず集まってくれ本当に感謝です。

いざ当日。私は何が不安なのかもわからない、だから余計に不安になると言う気持ちを抱いてのスタートでしたが、始めてみると各役割の仲間は勿論、参加して頂いた仲間が何も言わないのに手伝ってくれる姿を見たとき、感謝と同時に不安もすぐに解消されました。

「各役割は仲間に任せて実行委員長は全体を見てドンと座っていてくれ」と仲間に言われていましたが、元々が気の小さい男ですので、会場の中を熊のように(体型も似ていますが)ウロウロするばかり。

そんな私はさておき、大きなトラブルもなくラウンドアップも順調に進み、最終日の、さよならミーティングで参加して頂いた仲間から、開催した事への感謝の言葉を頂いて、「開催して本当に良かった」と思うと同時に「今から私が何をしていかなければならないか」が、少しではありますが、見えてきたように思います。

私の酒は酒乱です。以前の職場でも、同僚は勿論、先輩や社長にまで暴力を振るうような事もしばしばで、その度に厳重注意され酒は止めるように言われ続けましたが、私は怒りと恨みで毎日を過ごしていました。そのような私でも解雇にならずに雇い続けてくれた職場の方々への愛を感じる事も出来ず孤独になり余計に酒量が増し、どうしようもなく精神科に入院。絶望感に陥り人生を諦めていました。

そのような私が AA に繋がり素晴らしい仲間とプログラムに出会えた事で、アルコール依存症者として生きて行く指針と希望を与えて頂きました。今回ラウンドアップ実行委員長と言う役割を務めさせて頂いた事で改めて仲間の有難さ、愛と寛容を感じました。絶望感に陥り人生を諦めていた入院生活の日を思い起こすと「まさかこんな日が来るとは」。仲間の中でプログラムを実行し続ければアルコールを飲む必要のない生き方が出来る、と今は信じる事が出来ています。

今回のラウンドアップ開催にあたって、日頃よりお世話になっております、医療、行政、新聞社、他さまざまな機関の方々、お忙しい中ご参加頂き、ご協力を頂いた事に心より感謝申し上げます。おかげさまで大盛況のうちに終了する事が出来ました。不安と心配で始めたラウンドアップでしたが、素晴らしい経験をさせて頂いた仲間へ感謝。本当にやって良かった、この素晴らしい経験を多くの仲間へ伝えて行きたい。経験してほしいと思います。沢山の仲間との出会い、経験の分かち合いに感謝して終わりにさせて頂きます。ありがとうございました。感謝。

## ■ 常任理事会より

### 第18回評議会を終えて

常任理事会

評議会は 1995 年以来、今回で 18 回目を数え、昨年までの川崎から新習志野の『幕張セミナーハウス』に会場を移し、2013 年 2 月 9 日～11 日までの 3 日間開催されました。全国 7 地域から 19 名の評議員とノンアルコール常任理事 2 名、アルコール常任理事 6 名、WSM 評議員 1 名、JSO スタッフ 4 名(総議決権者数は 28 名)という構成でグループや地区・地域から提案された 32 件の議案とともに 2013 年度の活動計画と予算案を決議しました。

新しい会場は、全体会場も分科会も余裕のある室内で、オブザーバーの方の参加も多かったように思います。私の担当する第 2 分科会でも 10 名前後の方が参加。今後も増えてくれることを願っております。そんな中、事務局や書記団の方々のスムーズな進行のお陰もあり、予定の時間内ですべての審議が終了しましたことを報告いたします。詳細については評議員さんよりお伝えいただくとして、今年度の活動の主なポイントを報告事項から拾いますと、

- ① B類地方選出常任理事の立候補条件の変更。
- ② 東北地域におけるラジオCMおよびネット配信。
- ③ 新しいAAポスターをA2またはB2の大きさで作成。

以上のような議案が決定されています。

議案以外には、藤岡先生が WSM に参加された内容をパワーポイントを使って報告されました。大変に分かりやすく興味深い内容でした。また、NPO 法人について改めて評議員の皆さんに説明する時間を設けました。

常任理事会は多くの方のご協力のもと今年度も皆様の活動のお手伝いができたらと思っています。よろしくお願いたします。

各担当理事のコメントを掲載致します。どうぞご一読ください。

常任理事会議長・広報担当理事 服部

### 常任理事会に勧告したい内容を明確に

何をどうしたいのか、誰に何をしてほしいのか、趣旨のわからない議題が多く、議論がしにくかった。AA の全体サービスについて常任理事会に勧告したい内容を明確にしてほしい。内容の不明確な提案を修正したり、採決しても保留が多く結論がでなかつたり、随分能力が悪い。評議員も議題を十分理解しておらず地域で議論を積み重ねたようには見えない。法人顧問小松氏の話で AA と NPO 法人との関係に方向性が見えてきたのが収穫だったと思う。

A類常任理事 金杉和夫

### 本年も皆様からの暖かいご支援を

2011 年度では収支報告でマイナス 300 万円でしたので、やたらと予算削減議事を提出し皆様から暖かい叱責を頂き 2 月というのに汗を掻いていたのを思い出しました。2012 年では収支報告 +160 万円でしたので、活発な全体サービスを考えられたのではないかと思います。しかしながら、過去に累積した赤字を解消するにはまだまだ時間が掛かります。本年も皆様からの暖かいご支援をこころよりお願い申し上げます。

財務担当理事 精谷

### まるで浦島太郎の気分でした！

16 年ぶりに評議会構成メンバーとして参加しました。報告書で読んでいた質問用のスタンドマイク、話を断ち切る非情なタイムキーパー、一言漏らさずの書記団等、全てはグループの良心を霊的に高め具体的なゼネラルサービスに変換する討論と審議を確かにする為の用意です。私はそんな舞台に目を潤ませ、まるで浦島太郎の気分でした！後は仲間から信託を受けた僕として“私のではなく、あなたの御心に敵う様に”と願い身を委ねました。

企画担当理事 中村

### 私たちができること

「やっと1年終わった」というのが正直な感想です。理事の任期4年は長いようですが、何かを行うのに4年では足りないこともたくさんあります。私たちができることは、前の人たちから受け継いだものに、少し何かを加え、少し何かを手直して、次の人に手渡していくことなのでしょう。分裂のあるところに一致を、疑惑のあるところに信仰を、闇に光を、私が求めますように。事務局、JSO、委員会ボランティアの皆さんに感謝です。

JSO・BOX-916 担当理事 中山

本音が出るようなものとなった気がします。

最初の1年の終わりに評議会というメインイベントがあって、何か別の面から見させてもらった評議会が終わったな、と感じさせてもらっています。

評議会事務局の皆様(全員無償で尽くして頂いているボランティア)とJSOの職員の皆様、それにホテルのスタッフの人たちには感謝するしかありませんでした。その上に、私たちの良心を集める評議会が開かれているんだ、と改めて強く感じさせてもらった3日間でした。

与えてもらったものを、無償でお返ししていくことが実践されている、と感じました。そして、どういふわけなのかは分かりませんが、今回の評議会は、常任理事からも、評議員からも、本音が出るようなものとなった気がします。

矯正・評議会担当理事 星

### 『ホームグループ』100冊 完売！

第18回評議会が終わりホッとしています。出版担当理事として今回の評議会前に『ホームグループ』の出版を間に合わせようと出版ワーキンググループと共に努力してきました。なんとか間に合い、評議会の会場に100冊を並べましたが、大変に好評で、なんと完売！！致しました。皆さん、ありがとうございました。

これから先がとても楽しみになりました。なぜメンバーが増えないのかと言われ久しくなります。この本が解決の手がかりになれば嬉しいと思います。全国の仲間！購読よろしくお祈いします。

出版担当理事 前田

### 何故、評議会が必要なのか？

当時の常任理事会のチェアパーソンであり、評議会機構の立案者の一人でもあったノン・アルコールリックの故バーナード・スミス氏は、1954年の会合の開会の言葉の中で、この質問に見事な解答を出している。

『AA サービスマニュアル 2001年～2002年版』P.42より  
自分の回復を確かなものにしよとするとき、評議会は別に必要ないかもしれませんが。しかし、まだ暗闇のなかでつまづき、光を求めているアルコールリックの回復を確かにするためには、それが必要なのです。なぜかアルコールリックになる宿命を背負わされた新生児の回復を確かにするためには、それが必要なのです。十二番目のステップと同様に、来たるべき世代のすべてのアルコールリックに不滅の安らぎの場所を提供するために、そして彼らもまた、初期のメンバーを再生させた生まれかわりを見出すために、それが必要なのです。

私たちは、力や威信に対する人間の衝動が破滅をもたらすことに気づいており、それは決してAAに侵入してはならないものであるから、評議会が必要なのです。混乱と絶縁し、支配からAAを守るために、私たちにはそれが必要なのです。統制を避け、共同体の分裂を防ぐために、それが必要なのです。アルコールクス・アノニマスが、アルコールクス・アノニマスだけが、みずからの十二ステップ、十二の伝統、そしてすべてのサービスを究極的にゆだねられる場であるために、それが必要なのです。

AAのなかで変更があるとすれば、それはAA全体から出た必要と希望に応えるときだけであり、少数の人たちの要求によるものではないことを保証するため、評議会が必要なのです。AAの会場の扉の鍵は開いており、アルコールリズムの問題をかかえたすべての人が、いつでも素顔のままでも迎えられることを保証するために、それが必要なのです。アルコールクス・アノニマスは助けを求めている人の人種、信条、社会的地位を問題にしないことを保証する一助として、それが必要なのです。

『アルコールクス・アノニマス 成年に達する』P.422より

## ■JSOより

### 新刊『ホームグループ—AAの鼓動—』

2月1日より好評発売中 JSO 出版局

本書は、アメリカ/カナダ AAの月刊誌『グレープバイン』の中で、ホームグループについて投稿された記事を厳選しまとめた冊子を、日本語に翻訳したものです。

ビル・Wは、1995年のセントルイス・コンベンションにおいて、「AAの月刊誌『グレープバイン』は、ソプラエティを続けるための、共にやっていくための、そしてサービスするための、AAの最新の考えや経験を伝える最大最良の手だてとなっている」と述べて、AAの月刊誌を推奨しています。

日本語版を準備しているあいだ、BOX916に連載させていただいた効果もあったので、発売前よりたくさんのご予約をいただきました。まだ読まれていない方は、ぜひ手に取ってみてください。同じ原理のもと培われた経験の重みを、ずっしりと感じるができると思います。

AAに来たばかりの人の戸惑いから、グループが直面する問題、サービスと回復のバランス、伝統を生かすこと——私たちが知っていることはまだわずかです。

本書は4部で構成されています；回復の始まるころ／サービスの喜び／経験から学ぶ／生きている伝統

なお、グレープバイン社は、「記事はAAの方針を述べるものではなく、また、掲載されたいかなる記事も、AAやグレープバイン社がそれを支持することを意味するものではない」と言明しています。

本書を読んで、ぜひ分かち合いたい経験などがございましたら、BOX916に投稿してください。どこかの町のミーティング会場で、その経験を待っているグループがあるかもしれません。



A5版/150ページ

630円

編集・発行： NPO 法人 AA日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> [jso-11@fol.hi-ho.ne.jp](mailto:jso-11@fol.hi-ho.ne.jp)

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休